



Centre
Under the auspices
of UNESCO



International Research Centre
for Intangible Cultural Heritage
in the Asia-Pacific Region

事例研究を実施する協力者の募集について

*この募集要項は、先に公開した「Call for Collaborations to Conduct Case Studies under IRCI Project 'Research on ICH Contributing to SDGs: Intangible Cultural Heritage and Ecosystems' (FY 2026–2027)」の日本語参考訳です。英語版募集要項の内容をなるべく忠実に翻訳したつもりですが、解釈に疑義が生じた際には英語版の記述が適用されます。なお、日本語版申請書は、そのまま応募に使っていただけます。

アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)では新規事業「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究—無形文化遺産と生態系」(2026～2027年度)を開始するにあたり、本事業の枠組みで事例研究を実施する協力者を募集します。地域コミュニティと協力し、無形文化遺産を活用した地域の遺産保護のパイロット・プログラムを設計・実施することを目的とします。

申請書は2026年1月30日までにIRCIへ提出してください。

背景

無形文化遺産は地域環境やコミュニティと密接に関わっているにもかかわらず、持続可能な開発目標(SDGs)の文脈では依然として十分に認識・活用されていません。世界の文化遺産・自然遺産の保護を求めるSDGターゲット11.4においても、無形文化遺産の役割はしばしば見過ごされています。同様に、生態系や環境保護に寄与する地域や先住民の膨大な量の知識や実践も、SDG14(海の豊かさを守る)やSDG15(陸の豊かさを守る)などの目標において十分に認識されていません。

これらの課題に対処するため、IRCIでは、まず、無形文化遺産が有形の文化遺産や文化的景観および関連する領域などの保護にどのように貢献してきたかについて検討を始めました¹。その後、生態環境や景観の保全へと視点を広げ、今回の新規事業につながっています。「無形文化遺産保護と生態系」に関する予備調査では、無形文化遺産と環境の持続可能性の間の複雑な関係について探求し、保護の手法はコミュニティを基盤とし、有形・無形の両側面ならびに文化と自然環境を包括する総合的取り組みを通じて実施される必要があることを再確認しました。

この予備調査及び関連する取り組みを踏まえ、新規事業「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究—無形文化遺産と生態系」を開始します。

事例研究の実施目的

本事業では、自然遺産または保護生態系として知られる地域(ユネスコ指定の生物圏保護区やジオパークを含む)における遺産保護の実践的取り組みについて事例研究を実施します。アジア太平洋地域のコミュニティと協力し、自然遺産やその他の環境資源保護活動に無形文化遺産を統合するための手法を特定・検証することを目的とします。事例研

¹ 「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究—持続可能なまちづくりと無形文化遺産」(2022～2024年度)。事業報告書(英語)は以下で入手可能です。

https://www.irci.jp/wp_files/wp-content/uploads/2025/05/IRCI_Intangible-Cultural-Heritage-and-Sustainable-Communities-in-the-Asia-Pacific-Region.pdf

究を通じて、無形文化遺産と生態系、環境遺産間の相互関係に関する理解を深め、有形と無形、自然と文化の諸側面の関係性を再構築するとともに、より総合的で包摂的な遺産保護の新たな手法を開発するための基盤を作ります。

この観点から、IRCI はアジア太平洋地域において事例研究を実施できる協力者を募集します。事例研究は、上記の課題に対処するための十分な情報と知見を収集できる計画であることが必要です。

事例研究では、特に以下の点に取り組むことが求められます。

1. 環境保全地域等における無形文化遺産保護と生態系の持続可能性確保との相互作用を解明する。
2. 無形文化遺産保護を地域の遺産管理戦略に組み込む方策を探究する。
3. 効果的な遺産保護の取り組みの立案・実施において、地域コミュニティが主導的役割を担えるよう支援する。

これらの目的を達成するには、計画の初期段階から地域コミュニティとの積極的な連携が不可欠です。このような参加型アプローチにより、地域の状況に即し、文化的に適切であり、かつ持続可能な無形文化遺産の保護と生態系保全が可能になります。

応募資格

遺産保護または環境保全活動の分野で経験を有する個人研究者、遺産管理者、関連組織、研究機関など、本新規事業に寄与する事例研究への協力を希望する研究機関及び研究者を広く募集します。アジア太平洋地域の自然遺産や環境保全地域で現在活動しており、その活動に無形文化遺産を組み込むことに関心のある方の応募も歓迎します。

事例研究では、アクションリサーチの手法により、生態系保全に無形文化遺産を活用する取り組みの計画・実施・評価への地域コミュニティの参画を促します。したがって、対象コミュニティとその文化に関して基礎的な理解があり、かつ地域コミュニティ参加型の調査を実施する能力を備えていることが、調査を実施する上で重要です。

応募方法

下記リンクから申請書をダウンロードし、全項目を記入の上、**2026 年 1 月 30 日まで**にIRCI (irci@nich.go.jp) 宛てにメール添付で提出してください。

申請書は[こちら](#)からダウンロード

申請書は研究内容、方法論、地理的バランスなどを考慮し、総合的に審査・評価します。明確で具体的かつ実効可能な計画を提示してください。

調査費用および支払条件

採択された事例研究を支援するため、年間約 50 万～90 万円を提供します。最終的な金額は後日決定します。費用は謝金としての支払いとなり、事例研究報告書の提出後に振り込まれます。

なお、IRCI から支給できる予算には限りがあるため、既存のプログラムや進行中の取り組みを基盤とし、無形文化遺産の視点を取り入れたアクションリサーチの提案も歓迎します。

今後のスケジュール

2026 年 1 月 30 日 申請書の提出締切

2026年2月	申請書の審査 *選考通過者へは2026年2月20日までに通知予定。
2026年3月	研究計画を共有・議論するオンライン・ワークショップ *具体的な日程は後日決定します。
2026年4月	事業の開始 *研究開始

研究協力者は、2028年3月末までの事業期間中、本事業に関わる他の活動についても積極的に参加することが求められます。事例研究に加え、国際会議やワークショップなど様々な活動が予定されています。また、事例研究の実施状況確認のため、オンラインまたは対面での打ち合わせを必要に応じて実施する可能性があります。

問い合わせ先

本公募に関する情報の詳細または質問などのお問い合わせは、下記事業担当者まで御連絡ください。

辻 貴志（アソシエイトフェロー）

アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）

Email: irci@nich.go.jp Tel: 072-275-8050